

妙国寺寺報

平成二十年三月発行 第九号

「彼岸と比岸」
「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、最近では寒さも和らぎ、日中も過



しやすい気候になってきました。三月二十日は「春分の日」彼岸の中日です。さて、「お彼岸」とは一般的に「お墓参りの日」として定着していますが、「彼岸」とは、一体どういう意味があるのでしょうか……。目の前に大きな川を想像してみてください。大きな川を渡った向こう側、そちらを「彼岸」と言い、川のこちら岸を「此岸」といいます。彼岸はほとけさまの世界、そしてほとけさまの世界におられるわたちのご先祖さまの土地、安らぎの境地なんです。みんなゆつたりと安穩に暮らしています。一方こちらの此岸は、わたしたち凡夫が住んでいる世界、煩惱の世界です。毎日みんな欲望にまみれてあくせくと暮らしています。三月二十日の「お彼岸」は彼岸と比岸がもつとも近づく日です。さて、彼岸の方から比岸を見てみると……。どうでしょう？江戸の小話にこんな話があります。若者が昼寝をしています。そこに大家さんがやってきて、若者を叱ります。

「若いうちはせつせと働くべきだ！なのに、お前は昼寝なんかをしている。けしからん！」

「ですが、大家さん、働けばどうなるんですか？」

「そりゃあ、おまえさん、お金が儲かる……。？」

「それじゃあ、お金が儲かるとどうなるんです……。？」

「自分のお店が持てるようになる。」

「お店がもてるよ、その後どうなりますか？」

「やがて番頭さんにまかせて、おまえさんは楽隠居で、昼寝のできる身分になれる」

すると若者が言いました。

「ですが、大家さん、私はその昼寝を今やっているんですよ……。」

一見若者の屁理屈に見えるこのやりとり、しかし、よく考えてみてください。ゆつたりとして物事を達観しているように見えるこの若者に比べて、私達は毎日を一生懸命、働かなければならない、もつと努力しなければならぬ。昔から、このような価値観にとりつかれています。それは何故でしょうか？お金持ちになつて豪華に楽しく、愉快的生活がしたいから？自分の欲望を叶えるため？しかし、その欲望は叶ってしまうとまた次の欲望を探してしまうものなのです。私達は例え何もかも自分の思い通りになつたとしても、すぐ次の不満を探してしまう生き物であり、決して欲望に満足することはありません。この世界はまさしく欲望が渦巻く煩惱の世界です。



心安らかに欲望を抑えて安穩と暮らすにはどうしたらよいのでしょうか？仏教の精神には「小欲知足」という言葉があります。「欲望を少なくし、足るを知る心をもつ」という意味です。多くを望まず今のままの状況を感謝して今のままに受け入れる。これこそが彼岸の世界の思想です。彼岸と比岸が最も近づく日。ちよつと立ち止まって彼岸から比岸をのぞいてみる。彼岸のほとけさまの心でわたしたち凡夫の世界を、自分の中をのぞいてみる。そうすると、この世界のありようがまったく違って見えてくるかもしれません。

渡邊 義専

「仏種は縁によって起こる」

—法華経方便品第二—

渡邊 義俊

三十年前のこと、大変信仰熱心なお母さんが、嫁いで行く娘に「宗教が違つてもお題目は決して忘れないようにネ」といわれたそうである。娘は母親のいわれた通り、お題目を忘れず自分の生きてゆく拠り所とした。年月は流れ、やがてこの娘の嫁ぎ先の家はお題目のご縁をいただき日蓮宗に改宗したのである。

今年になってこの娘の子供が二十七才で嫁ぐ事になった。三十年前、母親に言われたように「何処に嫁いでもお題目は忘れないでね、家の皆が幸せになることがお題目の心だからネ。」と言ひ聞かせたそのうである。昔、母親の手によって蒔かれたお題目の種が芽を出し、大きく華開き実を結んだ。そしてやがて種となり、その種がまさに今、別の場所に蒔かれようとしている。方便品に「仏種は縁によって起こる」とあるが、親から娘に娘から孫娘にと伝えられたお題目は更に未来に向かって大きく実を結ぶであろう。

二月八日節分法要（星祭り）の後豆まき、庫裏上棟式がありました。たくさんのご参詣まことにご苦労様でした。



お知らせ

四月八日はお釈迦様の降誕会、花祭りがあります。午前十一時より鬼子母神様のお祭り兼ねて執り行います。どうぞお気軽にご参拝ください。

